



鳥山米穀店

古民家 荒井家 / 鳥山米穀店

宮城県仙台市 2002年 / 2008年 納入 放射暖房 PS HR ヒーター

古民家をよみがえらせる「室内気候」

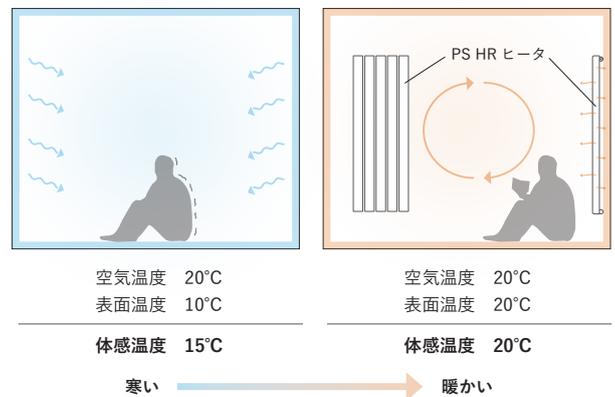
『断熱性能が低く、室内の熱が外に逃げやすい古民家。「寒くて不便」などの理由から多くの古民家が取り壊される危機に瀕しています。それらを救うには、伝統的な美しさを復元するとともに、断熱性と気密性を高め、少ないエネルギーで熱をデザインすることです。暖かく息を吹き返した美しい空間で快適にずっと暮らすこと、それは、地球への負荷を抑えることにもつながります。』このように語るのは建築家の安井妙子さん。安井さんは、「寒い」という欠点を取り除いただけで多くの古民家が復権するという信念のもと、徹底した断熱気密補強に取り組んでおられます。

断熱気密補強が施された建物に PS HR ヒーターを導入することで、室内の表面温度が上がり、放射熱による柔らかな暖かさが蓄積されていきます。(図1) それにより、古民家が抱える「寒い」という欠点が解消され、「寒くて不便な古民家」から「暖かくて快適な古民家」に生まれ変わります。温度環境の質を高めることで、長い歴史の風情を壊さずに地域の気候風土やライフスタイルに合わせた、後世に残る「古民家」を作ることができるのです。さらに、放射暖房 PS HR ヒーターは形やカラーバリエーションなどデザイン性にも優れているため、暖房をインテリアの一部として取り入れることも可能です。

図1：表面温度と体感温度

私たちは「空気温度」と「表面温度」の組み合わせで暖かさを感じている。例えば、空気温度が同じでも表面温度が低ければ寒さを感じ、表面温度が高ければ暖かさを感じる。

PS HR ヒーターはこの組み合わせのバランスをとる役割を担っている。



断熱性能が低いと外気などの影響で壁が冷やされ表面温度が低下する。



ピーエスグループ

北海道 | 盛岡 | 仙台 | 新潟 | 東京
長野 | 名古屋 | 大阪 | 福岡 | 熊本

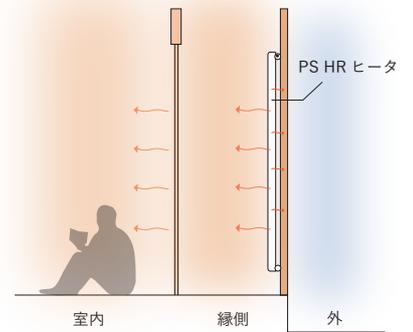


荒井家

宮城県仙台市の郊外にある荒井家は、明治5年の町屋を移築して復元された、取り壊しの危機に瀕していた古民家がよみがえった事例です。古民家の「寒さ」を解消するために断熱・気密改修が行われ、暖房として放射暖房 PS HR ヒータを採用いただきました。小さな熱源と連続運転による最小のエネルギーで、外の気候の変化に合わせて室内の環境が緩やかに変動します。音と風を飛ばさず、ひっそりと佇むその姿はまるでゆっくりと呼吸をする植物。取り壊される予定だった古民家が、放射冷暖房によって人が快適に過ごせる空間になったことで、よみがえることができました。荒井さん夫妻からは「前に住んでいた家は寒く、いくら暖房をつけても暖まらなかったのですが、今の家はどこにいても暖かいです。その存在を忘れてしまうほど快適です。」との声を頂きました。



縁側を温めることで室内の表面温度を上げ、冬でも安定した暖かさを実現。



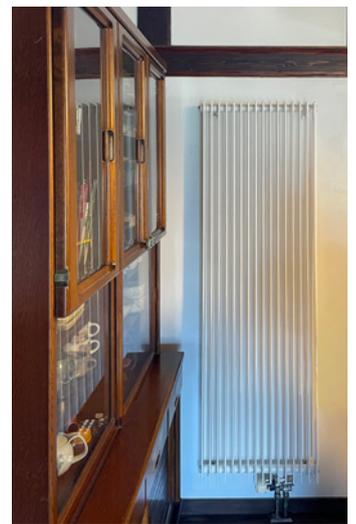
鳥山米穀店

宮城県仙台市にある鳥山米穀店は1836年創業の老舗です。仙台の発展に伴い周囲が高層化する中、店主の鳥山さんはこの建物を残す選択をし2008年に改修を行いました。改修を手がけたのは高断熱高气密補強で古民家の復権を行う安井妙子さん、そして暖房として採用されたのは放射暖房 PS HR ヒータです。東北の厳しい冷気にさらされ、凍るように寒かった鳥山米穀店。放射暖房を導入したことで、どこにいても心地よい、「暖かさ」に満たされた快適な空間に生まれ変わりました。そして2020年8月17日、鳥山米穀店は登録有形文化財に登録されました。

鳥山さんからは「暖かく、快適で住みやすいのでとても助かっています。やはりこの良さは説明だけでは伝わり切らないですね。実際に住んでみるとその良さを身をもって実感します。」との声をいただきました。



インテリアに馴染む PS HR ヒータ



左：鳥山米穀店 右：荒井家

情報センター PSi では「室内気候」の体感ができます。

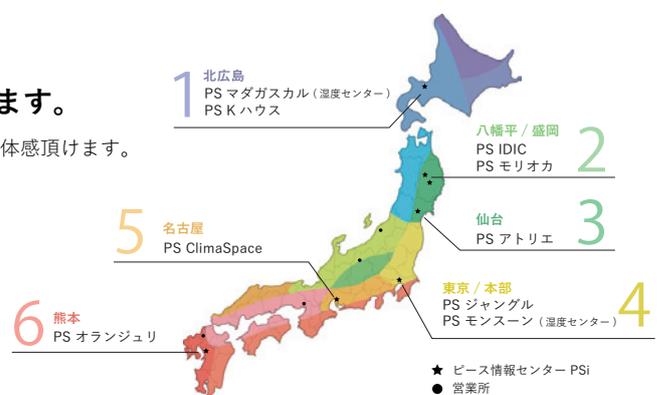
PSi ではそれぞれの地域の気候に合った「ピーエスの室内気候」を実際に体感頂けます。

ご興味のある方はぜひお近くの PSi にお気軽にお越しください。

※ご来場の際は事前に連絡をお願い致します。



各情報センターへのお問い合わせはこちらから
<https://ps-group.co.jp/psi>



ピーエスグループ

北海道 | 盛岡 | 仙台 | 新潟 | 東京
 長野 | 名古屋 | 大阪 | 福岡 | 熊本

